

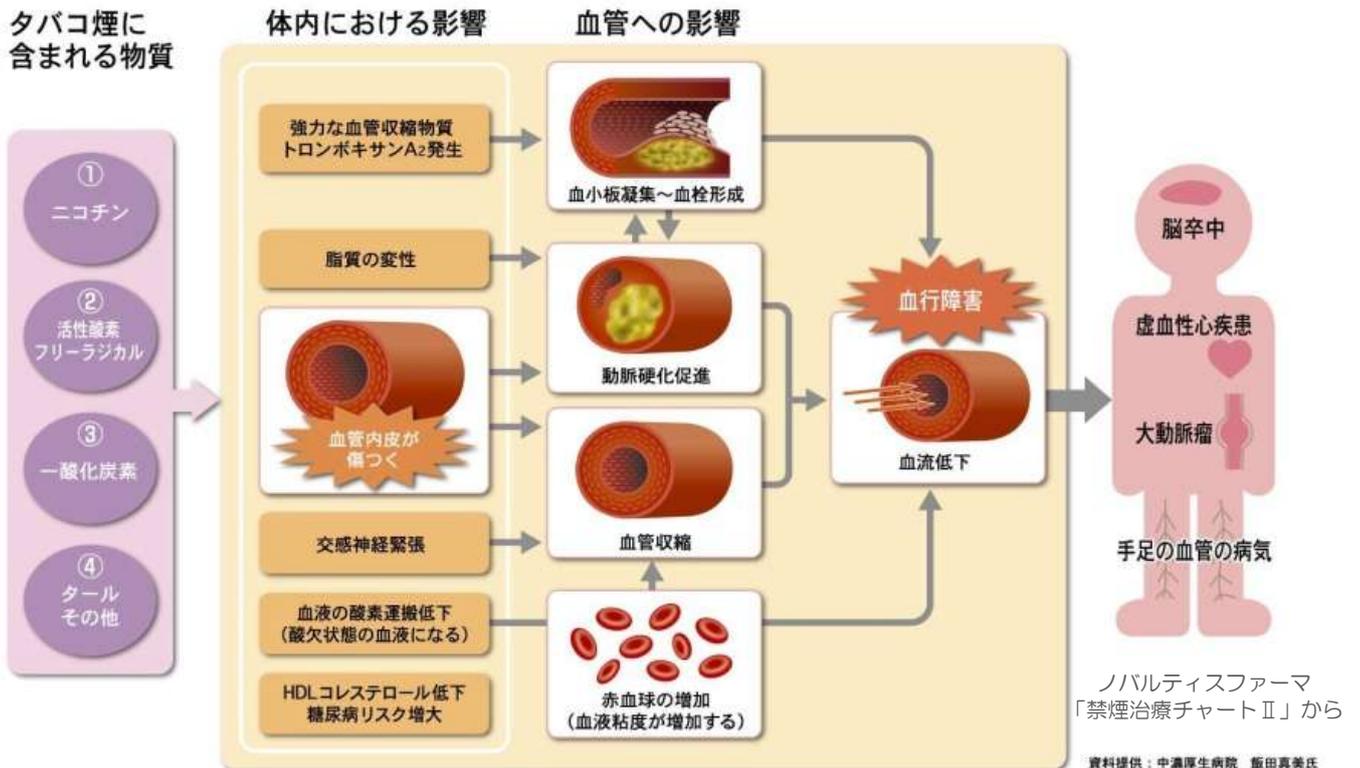
週刊 タバコの正体

『喫煙は、あなたにとって心筋梗塞しんきんこうそくの危険性を高めます』

『喫煙は、あなたにとって脳卒中のうそちゅうの危険性を高めます』

前回までに、これらの警告文の意味を知ってもらいました。どちらも血管が詰ったり破れたりする事が原因でしたね。つまり、そもそもタバコは血管に大きなダメージを与えるので様々な病気の原因となるのです。

タバコ煙に含まれる物質



上の図は、左端にあるタバコの煙に含まれる有害物質が血管に悪影響を与える様子を示しています。その中でも①ニコチンは交感神経を刺激するので筋肉が収縮しその結果、血管も縮まります。また、③一酸化炭素は血液を酸欠状態としてしまうので、酸素を運ぼうとする赤血球が増加します。すると血液粘度が増加し、ドロドロした血液になります。この症状は多血症とも呼ばれます。

血管が細くなり血液がドロドロになるのですから、血液の流れが悪くなり血行障害を引き起こすわけです。太いパイプにサラサラの水を流すのと、細いパイプにドロドロの油を流すのをイメージすればその違いを実感できるはずです。

喫煙者はタバコを吸うたびに、血管の中がこんな状態になっている事を自覚できません。だから、怖いのです。自分では気付かないうちに深刻な病気になってしまうのですから。

だから、吸い始めないことが大切なのです。

産業デザイン科 奥田 恭久